

生産性の飛躍的な向上による国内農業の競争力強化

主な政策課題	研究開発の方向
コメの生産コスト削減* 主食用 → 4割 飼料用 → 5割	ICT・ロボット技術の開発・実用化とあわせ、 コメの単収ポテンシャルを2~3倍程度 (1.5トン／10a目標)にアップ
海外市場の開拓* 2020年 → 輸出額1兆円 2030年 → " 5兆円	果樹、花き等の育種期間を半減 し、「強み」のある新品種を次々と作出し、海外への輸出を支援

* 印の目標は、平成27年6月に閣議決定された「日本再興戦略」改訂2015におけるKPI数値。

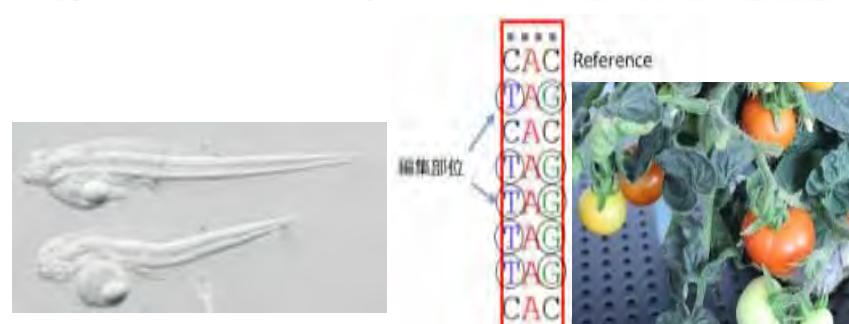
国民の健康長寿ニーズに対応した農産物の提供

健康長寿社会の実現 ・2025年には65歳以上が3割超 ・生活習慣病や認知症の予防	農林水産物に含まれる機能性成分の特性解明等(食品機能性G)とあわせ、 機能性成分等に富んだ農産物の開発・提供
---	---

水産資源の持続的な利用と安定供給

水産資源の持続的な確保 ・マグロ、ウナギ等の漁獲規律が強化	完全養殖用マグロ品種の開発 など、養殖管理に適した魚種や種苗管理技術の確立
----------------------------------	--

【フ・内科01】SIP 「新たな育種体系の確立」主な研究成果



ゲノム編集技術を活用した画期的な新しい農作物品種を開発するともに、それらが社会に受け入れられるための具体策を提示することにより、開発された画期的な農作物等の社会への浸透に貢献

【主な研究成果】

ゲノム編集技術の開発・改良

- ゲノムを切る酵素の立体構造を解明
- 酵素の設計の自由度向上等により、
➡ 我が国独自のゲノム編集技術開発に
向け前進

画期的な農水産物の開発

- 世界初のゲノム編集マグロを開発
- 受粉等のコストを削減可能なゲノム編集トマトを開発
- 高生産能力につながるゲノム編集イネを開発
➡ 消費者等のニーズの変化に対応可能な
農水産物の提供へ